

用語の解説

※本文中で説明のない用語のみを対象としています。

【A～Z】

●A I (Artificial Intelligence)

人工知能。人工的な方法による学習、推論、判断等の知的な機能の実現および人工的な方法により実現した当該機能に関する技術のこと。

●C V C F (シー・ヴィ・シー・エフ) (Constant Voltage Constant Frequency)

定電圧低周波数装置。無停電電源装置の一種で交流電力を供給するための装置。内部のバッテリーなどを利用して電力を供給し、安定した電圧、周波数を得ることができる。

●E P S (Electric Pipe Space)

電気の配線とその配線を通す配管を収納するスペース。

●E V 充電ステーション

電気自動車等の充電に用いる地上設置型の充電装置または充電施設。充電ステーション、充電スポットと呼ばれることもある。

●I a a S サービス (Infrastructure as a Service)

インターネット経由でハードウェアやICTインフラが提供される仕組み。

●I C T (Information & Communications Technology)

情報通信技術。パソコンだけでなくスマートフォンやスマートスピーカーなど様々な形状のコンピュータを使った情報処理や通信技術の総称。

●I o T (Internet of Things)

「モノのインターネット」と呼ばれる。自動車、家電、ロボット、施設などあらゆるモノがインターネットにつながり、情報のやり取りをすることで、モノのデータ化やそれに基づく自動化等が進展し、新たな付加価値を生み出す。

●I S 値 (seismic index of structure)

構造耐震の指標であり、国土交通省の基準では、0.6未満の建物は「震度6強の地震で崩壊、倒壊する危険性がある」とされる。IS値0.6とは大地震により構造体の部分的な損傷を生じるが、建築物全体の耐力の低下は著しくないことを目標とし、人命の安全確保が図られるグレードであり、一般公共建築物での目標値である。

●R P A (Robotic Process Automation)

ロボットによる業務の自動化。パソコン上で規則的に繰り返し行われるような定型業務を自動化するソフトウェアの総称。定型的なルールに基づく参照、入力、演算、レポート作成、出力を実行する。

●S D N (Software Defined Network)

単一のソフトウェアによりネットワーク機器を集中的に制御して、ネットワーク構成や設定などを柔軟に動的に変更できる技術の総称。

●VLAN (Virtual LAN)

仮想LAN。ネットワーク技術における仮想技術の一つ、物理的な一つのLANを仮想的に複数のLANに分けたり、逆に物理的に分かれたLANを仮想的な一つのLANに見せたりする技術。

●VOC (volatile organic compound)

VOCは揮発性有機化合物の総称。大気汚染や土壌汚染の原因となる物質も多く、住居用の接着剤に含まれる有機溶剤などが室内空気汚染物質として問題になっている。

●WIFI (ワイファイ)

無線LANの標準規格である「IEEE802.11」の消費者への認知を深めるため、業界団体のWECA (現:Wi-Fi Alliance) が名付けたブランド名。

●ZEB (Net Zero Energy Building)

快適な室内環境を実現しながら、建物で消費する年間の一次エネルギー (自然から採取されたままの物質を源としたエネルギー。石炭・石油・天然ガス・水力・原子力などのこと) の収支をゼロにすることをめざした建物のこと。

【あ行】

●イリジウム衛星携帯電話

宇宙にある人工衛星「イリジウム」を使って通話することができる衛星通信の携帯電話。

●オープンスペース

都市部で建築物が建てられていない広がりのある空間で、広場・緑地や市街地内農地、河川空間などのこと。

●オープンデータ

国、地方公共団体及び事業者が保有する官民データのうち、国民誰もがインターネット等を通じて容易に利用 (加工、編集、再配布等) できるよう公開されたデータを指す。そのデータは営利目的、非営利目的を問わず二次利用可能なルールが適用されたもの、機械判読に適したもの、無償で利用できるものとされている。

【か行】

●環境共生

地球環境保全の観点から、エネルギー・資源・廃棄物などの面で十分配慮され、周辺の自然環境と調和すること。

●5G回線

第5世代 (5th Generation) 無線移動通信技術の略称。通信速度は現行方式の4GやLTEより速く、大容量データの送受信が可能となる。

●コンシェルジュ

公共施設などで、訪問者の希望に応じてさまざまな提案や手配などをする係 (人) のこと。

【さ行】

●災害対策本部

災害発生時又は災害が発生する恐れがある場合に、災害復旧・復興に向けて対策を決定し、指揮をとる本部のこと。市長が設置する。

●再生可能エネルギー

石油・石炭・天然ガスなどの枯渇する心配のある化石エネルギーとは違い、太陽光(熱)・風力・水力・地熱などの自然エネルギーや、バイオマス(動植物に由来する有機物)といった地球資源の一部など自然界に常に存在するエネルギーのこと。

●資源循環システム

使用済みのものを廃棄物として捨てずに貴重な資源として有効利用するシステムのこと。

●スマート自治体

人口減少が深刻化しても自治体が持続可能なかたちで行政サービスを提供し続け、住民福祉の水準を維持していけるよう、進展する情報通信技術やAI・RPA等の技術を活かしつつ、職員の事務作業の効率化や、ベテラン職員の経験の蓄積・活用、より価値のある業務への注力等により、団体の規模・能力や職員の経験年数に関わらず効率的効果的に事務処理を行える自治体のこと。

【た行】

●低炭素(まちづくり)

自然・再生可能エネルギーの活用促進、建築物の省エネルギー化、自家用車から公共交通への利用転換、緑地の保全など、二酸化炭素の排出量削減に向けた取組みを進めるまちづくりのこと。

●デジタル社会

リアルな「モノ」や「サービス」を「デジタル化(非物質化)」することで文化、産業、人間のライフスタイルを一変させていく社会。

【は行】

●ハザードマップ

近江八幡市洪水ハザードマップのこと。浸水想定区域、土砂災害の危険箇所など自然災害による被害を予測し、地図化したものである。予測される災害の発生地点、被害の想定区域および被害程度、さらには避難所などの情報が地図上に図示されている。

●パーティション

部屋や行動などの空間を仕切る、取り外しや移動が可能な壁。間仕切り。

●パブリックコメント

計画等の策定や規制に関する条例等の制定等の過程において、案の段階で広く公表し、市民からの意見や提案を求めるとともに、寄せられた意見等に対する実施機関の考え方を明らかにして、施策などの意思決定に反映させることを目的とした制度である。

●パブリックスペース

公共の空間。誰もが自由に入出りできる開放的な場所のこと。

●バリアフリー

障がい者や高齢者等が円滑に生活できるように、建築物等の障壁を取り除くこと。移動平面の段差の解消や音声案内、点字表示の設置などを行う。

●フレキシブル

柔軟性や変化への対応性をいう。

【ま行】

●マンホールトイレ

災害用トイレの一つ。下水道に直結したマンホールで、非常時にはその蓋を開け、簡易便座を置いて利用する。

【や行】

●ユニバーサルデザイン

道具や空間をデザインするにあたって、子どもや高齢者、障がい者から健常者まで含めた全ての人にとって使いやすいデザインを考えること。

【ら行】

●ライフライン

主にエネルギー施設、水供給施設、交通施設、情報施設など、生活に必須なインフラ設備を表す。

●ランニングコスト

建物の建設だけでなく、維持管理・運営にいたるまで、建物の生涯において必要となる費用のこと。LCC (Life CycleCost) と称される。

【わ行】

●ワンストップサービス

行政の窓口一本化など、一つの場所でまたは一度で様々な作業や手続、サービスの提供が行えること。